

地震予知法はこんなにある

予知法	実現性	
GPSで 変動計測	○○○	国土地理院が全国1240ヵ所に設置しているGPSによる電子基準点で大地の変動を察知する。地震の半年ほど前から、大地の大きな伸縮が繰り返し観測され始めることが多い
上空の 電子数計測	○○○	GPS衛星から送られるマイクロ波が上空に浮かぶ電子にぶつかって遅れることから電子の数を計る。大地震の1時間ほど前からの直前予知に効力を発揮する可能性が出てきている
電磁波の 擾乱観測	○○○	地震発生の数週間前から、FMラジオの電波などが本来届かないはずの遠方まで届く現象などが観察される。震源を挟んで電波の発信元と受信先を設置する必要があり観測態勢の整備が課題
前震の 活発化	○○	海溝型地震の震源になると予想される場所で小さな地震が発生し、その頻度が増加していくようなときには、大地震につながる恐れがある。ただし関係ない小さな地震と区別するのが難しい
深部低周波 微動	○○○	防災科学技術研究所の公開しているHi-netで観測できる。東海地方や紀伊半島ではほとんどの有感地震の前にこの現象が発生。ただしこの地域でも同じような相関関係があるわけではない
動物の 異常行動	○	地震の前兆として有名だが、科学的には未知数。ただし中国では'75年海城地震の際、市民から寄せられた動物の異常行動の情報などから事前避難を行い被害の拡大防止に成功した
地震雲		報告例は多いが多くの科学者は懐疑的。震源と関係ない位置で観察されるものがほとんどだからだ。ただし震源の直上で地震直前、太陽が歪んで見えた例などもあり大気に変化した可能性はある
月と太陽の 引力の変化	○○	統計的には月と太陽の引力の影響が大きい時期に大地震の多くが発生している。必ずしもその時期だけに地震が起こるわけではないが、より地震に注意すべき時期は事前を知ることができる